

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～  
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



年中さんが育てたひまわり

開成町立開成幼稚園

# たいよう通信

第4号

発行日：令和6年7月22日（月）

発行者：園長 杉山 孝史

## 1学期を締めくくる

7月19日（金）は1学期の最終日でした。4月からこれまでの成果を振り返り、2学期に向けて気持ちを新たにするために終業式を行いました。

前半は、年長児と年中児です。はじめに年長の各学級が1学期に取り組んだことの中から、楽しかったことやがんばったことなどをそれぞれ紹介していきましました。

ばら組は、写真を見せながらあじさい公園で歌った思い出を紹介しました。（写真①）さくら組は、海賊から届いた手紙を手がかりに砂場から宝を探し出した話を紹介しました。（写真②）れんげ組は、積み木を上へ上へと積み重ねて、天井近くまで届くほどのタワーを作ったことを紹介しました。（写真③）各学級の発表に温かな拍手が送られました。

後半は、年少児の終業式でした。（写真④）式のはじめに年少児全員で「なみとかいがら」の歌を気持ちよく歌いました。また、園歌もしっかりと歌えました。入園から4ヶ月足らずですが、立派な参加態度に子どもたちの成長をひしひしと感じました。



①



②



③



④

4月から7月までの主な出来事をスライドで振り返った後、夏休みの約束として早寝・早起き、交通事故や誘拐などに気をつけることを伝えました。また、絵本「あつい、あつい」（垂石眞子・作）の読み聞かせの中で、とっておきの涼しい場所を子どもたちに紹介しました。どの学年の子も、話をしっかりと聞くことができました。みんなすてきさんです。

## 皆さまに感謝

4月からこれまで、保護者や地域の皆さまには、何かと幼稚園を支えていただきありがとうございました。皆さまのお陰で無事1学期を終えることができました。いよいよ夏休みに入りましたが、子どもたちや皆さまにとって「笑顔いっぱい・元気いっぱい・気持ちの良いあいさつの飛び交う素敵な夏休み」（終業式の中で子どもたちにも話しました）になることを願っております。8月29日（木）、ひときわ遅くなった子どもたちに会えることを楽しみにしております。有意義な夏休みをお過ごしください。

## 県教委主催の研修会開催

神奈川県教育委員会主催の中堅教諭等資質向上研修講座が、6月5日（水）開成幼稚園で開催されました。県内の公立幼稚園やこども園で保育にあたる採用からおよそ10年の先生方6名が参加されました。

さくら組・浅井教諭の保育参観、保育参観をもとにした話し合い、演習と講話など密度の濃い研修会になりました。参加者からは、「園の子どもや職員の雰囲気がとてもよかった」「子どもたちに遊びを通した学びの芽が育っている」など、好意的な感想がたくさん寄せられました。研修に参加された先生方の一層の飛躍を期待したいと思います。



# 祭 夏まつり

7月13日(土)、  
今年もPTA主  
催の夏イベント  
「夏まつり」  
が、開成町福祉  
会館を会場に開  
催されました。  
昨年は、開成幼  
稚園の園舎とす

ぐ隣のどんぐり会館で行わ  
れていましたが、暑さ対策  
などから急きょ会場を変更  
することにしました。

当日、園児やご家族など多  
くの方々が会場を訪れ、「お  
かしつり」(写真

①)や「おたのし  
みすくい」(写真

②)、「アスレチック」(写真③)など  
の遊びを楽しみ  
ました。また、今  
年は東海大学よ

さこいダンスチーム「響(ひびき)」の学生さん  
をお呼びし、華やかでダイナミックな演舞(写  
真④)を披露してもらいました。子どもたちみ

んなで一緒に踊った「石  
狩シャケサンバ」(写真⑤)

もノリノリで楽  
しさいっぱい  
でした。この日、友  
達や家族と楽し  
く過ごしたこと  
を子どもたちは  
いつまでも忘れ

ずに覚えていることでしょう。

まつりの計画から準備・運  
営を担当されたPTA役員さ  
ん、当日お手伝いしてくださ  
った保護者ボランティアさ  
ん、会場を提供してくださっ

た社会福祉協議  
会、駐車場を貸  
してくださった  
地元企業など、  
実に多くの方々  
のご協力により

夏まつりが開催できまし  
た。皆さまに感謝です。  
ありがとうございました。



## ☆ ひだまり

### トットちゃんの学校



▼7月6日(土)、NHK総合テレビ

新プロジェクト「トットちゃんの学校」戦時下に貫いた教育の  
夢」が放送されました。この日は、大ベストセラー「窓ぎわの  
トットちゃん」の舞台となったトモ工学園の話題でした。戦争の  
足音が近づく昭和12年、東京・自由が丘にトモ工学園をつくった  
のは、音楽教師の小林宗作(こばやし・そうさく)校長先生でし  
た。「どんな子どもも、すばらしい才能をもっている」という信  
条のもと、世間から疎外された子どもにも受け入れ、その本来が  
持っている力を引き出す新たな学校をつくりました。▼そこに入  
学してきたのが、当時小学生だったトットちゃんこと黒柳徹子さ  
んでした。落ち着きがないという理由から、前の小学校を退学さ  
せられていました。小さなトットちゃんは、心の中に何とも言え  
ない寂しさややるせなさを抱えていました。しかし、伸び伸びと  
したトモ工学園での生活が次第にそれを変えていきました。黒柳  
さんは、当時のことを振り返って次のように話されました。先生  
は、いつ私に会っても「君は本当はいい子なんだよ」とずっと言  
い続けてくださいました。どんな時代となっても、すべての子ど  
もたちが取り残されない、一人一人の良い所を見出し出していける、  
そんな世界であってほしいと思います。涙をそっと拭かれた仕草  
に胸が熱くなりました。▼子どもたち一人一人ときちんと向き合  
い、その子のよさや可能性を認め、伸ばし育てていく教育・保育、  
まさにそれは開成幼稚園で日々行っていることだと、放送を見な  
がら確信しました。番組の中で紹介された小林校長先生の言葉が  
印象に残りました。「教育は、20年先を見て行うものだ」目先の  
ことにとらわれ過ぎず、広くて大きな長い時間軸の中でゆったり  
と子どもたちを育てるという考え方、肝に銘じたいと思います。